

経営講座

「新：高知県で儲かる会社を創る方法」

第16回テーマ

高知県の地方自治体の力での「数多くの儲かる会社創り」は、こうすれば出来る。

※他県の成功例、その5

『全く何も無い所から、市民のアイデアで「観光収入1兆7,700億円の象徴」を創出した成功例』について詳説する。

ここでは他県の地方自治体の町長、地方公務員、住民による「数多くの儲かる会社創り」の成功例を紹介するが、ここで重要なことは、次に掲げる「環境創生勝利戦略」並びに「その戦略を成功させる為の勝利戦術」について、これらの戦略及び戦術が成功したからこそ「数多くの儲かる会社創り」が実現したものであり、これらの勝利戦略及び勝利戦術の成功要因に注視して熟読して欲しい。貴自治体での「数多くの儲かる会社創り」の実現を心より願っている。

「他県の自治体に出来て、高知県の自治体に出来ないことは無い」と私は確信する。

全く何も無い所から、市民のアイデアで「観光収入1兆7,700億円の象徴」を創出した成功例

「うちの市町村は何も無いからダメだ。」よく聞く話である。しかしながら何も無いところの成功例はあるのだ。次にその成功例を紹介する。

【当時の環境】

シンガポールは事実上1つの都市から構成されている為、シンガポール国内には地方自治体が存在しない。この為、首都も建前上はシンガポール市となっているが、実際には首都（並びにシンガポール市）は存在しない。

何も無いところからの成功例としては、前述の青森県田舎館村とこのシンガポールにおけるマーライオンも同様である。

【戦略】

『観光客増加戦略』とにかく観光客を増やしたい。

【戦術】

『新たな観光資源創生』戦術

シンガポールは観光資源も何もないので、新しく創るしかないのだ。シンガポールの新しい観光資源として作られたのがマーライオンである。

ご承知の通り、このマーライオンは、上半身がライオン、下半身は魚の像である。材質は全身コンクリート製で口から水を吐いている。このマーライオンはシンガポール政府の公認で生まれた人工構造物であるが、これも正に、何も無いところから超有名な観光名所を人間が創り出したものである。これはシンガポール大学の副学長によって彫像にするという構想が打ち出され、シンガポール政府観光局の後援で誕生したものである。

これらのことから、「何も無いから何も出来ないことは無い」ということが立証される。

ちなみに、このマーライオンの制作費は165,000 Sドル（シンガポールドル）で、「1 Sドルを約80円（2019年11月12日16時00分現在で1 Sドル80.33円である）」で換算す

ると日本円で約 1,320 万円である。



出典：まるしかくさんによる写真ACからの写真

【成果】

①マーライオンが、シンガポール観光約 1 兆 7,700 億円の象徴として観光産業を支えている。

②地方創生にも寄与

2015 年のシンガポールの観光収入は約 1 兆 7,700 億円だが、このシンガポール観光の象徴であるマーライオンは、正に費用対効果抜群の人工観光資源である。制作費の約 1,320 万円が、年間観光収入約 1 兆 7,700 億円の象徴となっているのは、正に安い買い物である。

このマーライオンは、シンガポールの象徴として、シンガポールの観光産業の儲けを支え、シンガポールにおける地方創生の大役を担っている。

【高知県への提案】

高知でも、マーライオンのような高知観光の象徴ができないか？ 熟考して下さい。

例＝新しい龍馬像。人々が龍馬像の中に入れて、龍馬目線で（龍馬の目の所から）太平洋を一望。新高知観光の目玉の誕生で観光客何十倍、ホテル・旅館が嬉しい悲鳴

< 龍馬社長大学 学長 奴田原 惇郎（ぬたはら・あつお） >